

# 徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校 総括評価表

		自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標（と活動計画）		評価		学校関係者の意見	
		評価指標	活動計画	評価指標の達成度	総合評価		
I 自主的・主体的な学習習慣を確立し、学力の向上・定着を図る。また、主権者意識を高める教育を推進し、自ら考え、判断し、意見を述べることができる生徒の育成をめざす。	《全校レベル》 主権者意識を高める教育を推進し、生徒自身が考え判断し実践できることをめざす。また、意欲的に学習に取り組む習慣を確立できるような学習指導の工夫や授業改善に取り組む。 《下位組織レベル》 ①年間2回の相互参観授業の実施や教員研修会、授業評価を通じて、教員の授業力の向上を図る。 [全教員] ②週課題は、思考力の育成や自主的な学習活動に繋げる。 [看護科] ③自主的な学習習慣を支援するため、課題学習の工夫・改善を図る。 [専攻科] ④生徒に学習の具体的な目標を持たせるため、各テスト(看護科目実力テスト、課題テスト、実習前総合評価、看護科目確認テスト、基礎看護技術実技テスト、模擬試験)を計画的に実施し、事後の個別指導の充実を図る。 [教務課、進路指導課、看護科、各教科担任、HR担任] ⑤主体的学習活動を支援するため、ディベートの実施やICTの活用等、授業の手法を工夫する。 [全教員] ⑥専門領域の教員研修に取り組む、専門科目の指導の充実を図る充実を図る。 [全教員] ⑦家庭学習を充実させるため、予習・復習を必要とする授業展開や指導方法を工夫する。 [全教員]	①相互授業参観週間を年2回実施し、評価に基づいた授業改善を行う。		相互授業参観を6月と9月に実施した。参観後、授業者と参観者が意見交換を行い効果がみられた。	A	生徒の自主的・主体的な学びを促進するための様々な取組ができています。また、主権者教育や政治・選挙に関する指導が行われている。主権者教育の取組により、看護師に関する国の政策にも興味関心を持ってもらいたい。	生徒は入学時点で自らの将来の目標を定めている。そのため、学習の必要性を強く認識し、日々真面目に取り組んでいる。今後は自主的・主体的な学習習慣を全ての生徒に確立させるとともに、考える力や表現する力を育成していく。また主権者教育において、政治や選挙に対する関心が深まるよう、授業の工夫や学校行事等を検討する。
		②週課題の出題内容の充実を図り、テーマを設定した調べ学習を各学期1回以上設定する。		調べ学習を各学期1回以上は設定し発表をさせることで思考力やコミュニケーション力の向上につなげている。	A		
		③授業評価で「家庭学習(予習復習・課題)ができた」が70%以上		「家庭学習(予習・復習)ができた」が70.0%であった。	A		
		④授業評価で「発表や質問、返答が積極的にできた」が70%以上		「発表や質問、返答が積極的にできた」が72.1%であった。	A	授業評価において「興味・やる気を持って取り組んでいる」と答えた生徒が88.6%、「教員の説明に集中した」と答えた生徒が88.9%であった。	
		⑤学年末成績平均が60点未満の生徒は、保護者を交えて次年度の学習への取り組みや、学校生活について面談を行う。		学年末成績平均が60点未満の生徒や成績下降が著しい生徒は、学期末に保護者を交えて面談を行った。また定期考査前にも個人面談を行った。	A		
		⑥専攻科において、実習後の振り返りを行い、思考判断能力の向上が見られる。		看護過程の授業等において実習の振り返りをグループワークし、自分が行った看護について新たな気づきを得られている。	A		
			自主的・主体的な学習の習慣化を図り、ディベートの実施やICTの活用等、授業展開を工夫し、思考力の育成を図る。	思考力やコミュニケーション力の育成を図るために、グループワークや発表の機会を増やす等の工夫をしている。		教員は積極的にICTを活用し、主体的な学習ができるよう取り組んでいる。生徒の主権者意識を高めるための教育をさらに推進する必要がある。	
		①「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」手法を取り入れる。 ・授業にICTを積極的に活用する。 ・専門領域の外部講師を本年度も継続して招聘し最新情報を取り入れる。		授業においてICTを積極的に活用し、効果的な授業展開を工夫している。基礎看護、老年看護、成人看護学、小児看護学、在宅看護論、精神看護学の分野で外部講師を招聘し講演・講義を行った。			
		②定期考査や模擬試験返却時、個人面談を行い、個々に応じたアドバイスや指導を行う。		定期考査前後に個人面談を実施した。また成績不良者に対しては、振り返り学習の指導を行った。			
		③定期考査・課題テストにおいて60点に満たない生徒は補充学習を行い、学力の向上を図る。		学年末成績が60点に満たない者に対し、担任、学年主任が生徒、保護者に対し面談を行った。また課題テストにおいて60点に満たない生徒は補充学習を行った。			
		④「政治や選挙への関心や政治的事象への関心が以前より高まった」と答えた生徒が70%以上。		「政治や選挙に関する知識が以前より得られた」と回答した生徒は77.0%、「政治や選挙に関心がある」と回答した生徒は58.8%だった。主権者教育に関するホームルーム活動を3回、模擬選挙等の学校行事を5回実施した。			
		⑤主権者教育に関するホームルーム活動や学校行事等を年3回以上実施する。					

# 徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校 総括評価表

自己評価					学校関係者評価	次年度への課題と											
重点課題	重点目標	評価指標 (と活動計画)		評価 価		学校関係者の意見	今後の改善方策										
II 臨地実習での指導方法を工夫し支援体制を整備するとともに、看護師国家試験合格をめざす。	《全校レベル》 臨地実習において必要な基礎学力の充実を図り、生徒の力量に応じた個別指導に取り組み、看護師国家試験合格をめざす。  《下位組織レベル》 ①看護科と専攻科の連携を深め、臨地実習指導の充実を図る。 [看護科教員] ②実習時における個別・グループ別指導の充実を図る。 [看護科教員] ③臨床側指導者と密接な連携を図る。 [各施設担当者] ④国試演習の充実を図る。 [進路指導課] ⑤模擬試験の有効活用に取り組む。 [進路指導課]	<b>評価指標</b> ①個々に応じた指導に取り組む。適切な資料の提供等生徒が実習しやすいような支援体制を整える。	②臨地指導者との連携を密にし、生徒の問題を早期に把握し適切に対処できる。	③臨地実習終了後は、生徒全員に、実習場面の振り返りを行わせ、思考判断能力を育成する。	④専攻科において、各模擬試験の有効活用を図り、必修問題8割、一般問題7割に満たない者は再試験を実施する。	⑤専攻科において、国試演習では看護師国家試験の出題基準を網羅し、内容の充実を図る。	<b>活動計画</b> 臨地実習を通して学びを深め、看護師国家試験に意欲的に取り組めるようにする。	<b>活動計画による実施状況</b> 臨地実習での経験を校内での授業や看護師国家試験過去問題と関連させ、意欲の向上につなげるよう努めた。	①校内の講義・実習と臨地実習との関連を図り、適切な教材の提供を行う。臨地実習事前レポート課題の内容を精選し、長期休業前に提示する。	②臨地実習中は随時、個別指導を行うとともに、専門書を活用させ、自ら学ぶ環境を整える。	③実習内容の報告を徹底し、生徒・教員間で連絡・相談を行う。	④専攻科において、各模擬試験の得点率が、必修問題8割、一般・状況設定問題7割以上になるまで再テスト実施する。	⑤専攻科において、補習や国試演習は習熟度別等のグループに分け、個に応じた指導を行う。	<b>評価指標による達成度</b> 実習中は個別指導を重視し、担当教員が連携し支援体制の充実を図った。参考図書等の資料整備も行った。 A 実習場のスタッフと密に連携を取り生徒の状況把握に努めた。気になる生徒については、個別面談等を行い、早期解決を図った。 A 実習終了時点で、実習を振り返っての学びと反省をそれぞれにまとめ発表した。 A 再試験は、記述式問題や口頭試問を取り入れ、知識の定着に努めている。 A 教科の各領域で、出題基準を研究し、看護師国家試験演習に取り組んでいる。 A	<b>総合評価</b> (評定) A  臨地実習において生徒は全員、まじめに取り組むことができていく。困難を感じる生徒もいるため個々の状況に応じて指導方法を工夫した。実習中の学びを授業や演習に取り入れ意欲の向上を図ることもできた。	看護臨地実習を効果的に実施していくためには、看護教員だけでなく、臨地実習指導者と連携し、臨床指導者による生徒へのサポートも必要である。また、看護研究等においても臨床指導者との連携していったほうがいい。	ほとんどの生徒が真面目で前向きに取り組んでいる。しかし、臨地実習の専門性が深まるとともに支援が必要な生徒が数名いるので、サポート体制を強化していく。指導に当たっては、心身ともに温かくサポートすることを再認識し、実習指導の充実を図っていく。

# 徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校 総括評価表

自己評価		評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標 (と活動計画)	評価指標による達成度	総合評価 (評定)	学校関係者の意見	
Ⅲ 挨拶, 言葉遣い, 礼儀作法, 時間やマナーを守る態度と好ましい人間関係を育成し, 看護師として必要な資質の向上を図る。	<p>《全校レベル》                      基本的な生活習慣の確立をめざし, 挨拶の励行や望ましい言葉遣いや態度, マナーを身に付けさせる。</p> <p>《下位組織レベル》                      ①毎学期の生活目標を持たせ主体的に行動できるようにする。                      [各 HR 担任, 生徒指導課]                      ②「服装・マナーアップ週間」を設定し, 頭髪服装指導に取り組むとともに, 相手や場に合った言葉遣い, 礼儀, 挨拶, マナーについて自己評価させ, 社会的素養を高める。                      [生徒指導課]                      ③生徒会や生活委員等によるあいさつ運動を積極的に展開する。                      [生徒指導課・特別活動課・人権教育教育相談課]                      ④いじめの未然防止, 早期発見に努める。                      [生徒指導課]                      ④防災教育の充実を図り, 災害から身を守り, 自らの安全を確保するための行動ができる能力を育成する。                      [環境防災課]</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>①学期目標の自己評価の「できた」が平均 8.5%以上。                      ②各学年で, 毎月服装・頭髪指導を実施し, 指導を受ける生徒が 5%以内。                      ③挨拶や会釈が出来る生徒が 90%以上。                      ④適切な応対ができ敬語が使える生徒が 90%以上。                      ⑤いじめ防止対策として, 情報収集に努め, 職員間の共通理解を図る。                      ⑥スクールカウンセラーと連携を図り, 生徒の悩み等の支援体制を整備する。                      ⑦防災訓練を年 3 回行い, 生徒全員が適切な避難行動ができる。                      ⑧専攻科において, 自主・自律的に身だしなみについて考え, 行動できたと自己評価した生徒が 90% 以上。</p> <p><b>活動計画</b></p> <p>生徒指導やマナー指導について, 全教職員で共通理解のもと, 協力して取り組む。教育相談支援体制の強化を図り, 生徒がいろいろな悩みについて相談しやすい環境を整備する。</p> <p>① HR 活動のテーマに, 「パブリックマナー」を取り上げ, 意識の向上や強化に努めるとともに, 実践力の向上を図る。                      ②遅刻回数や欠席回数の月別累積を集計し, 結果をもとに指導する。                      ③生徒会役員や生活委員等を中心に「あいさつ運動」を行う。                      ④ TPO に応じた礼儀や言葉遣いの指導を行う。                      ⑤教員から生徒への声かけやながらカウンセリングを充実させる。                      ⑥専攻科において, 看護科で身につけた身だしなみやマナーをさらに向上させる。</p>	<p>各学期の生活目標について, 「できた」が平均 8.7% となった。                      A                      月初めの一斉服装・頭髪指導の対象者は 1.8% となった。第 1 学年は 4 月, 第 2・3 学年は夏季休業日あけの 9 月に指導を受ける生徒が多くなっている。                      A                      挨拶や会釈が出来る生徒が 90.4% となった。                      A                      適切な応対と敬語が適切に使える生徒が 87% という結果になった。                      B                      年間 3 回「いじめ体罰アンケート」を実施し, 疑いのある事案については, いじめ防止対策委員会を 2 回実施 (2 学期末現在) した。また, 職員研修ではスクールロイヤーの派遣を県に申請して, 法律に基づくいじめ対応について共通理解を図った。                      A                      スクールカウンセラーと生徒及び保護者の面談は延べ 2.9 回実施した。                      B                      火災, 津波及び地震を想定した避難訓練を 3 回実施し, 適切な避難行動がとれた。                      A                      学校評価アンケートの「身だしなみはきちんとしている」という項目では 95.0% となった。                      A</p> <p><b>活動計画による実施状況</b></p> <p>学校評価アンケートの「生徒指導方針に賛成である」という項目では生徒及び保護者共に 90% を超えている。スクールカウンセラーや阿南警察署等の関係機関との連携も行い, 個別の相談に対応する体制を整えている。                      年度当初に「パブリックマナー」をテーマとした一斉ホームルーム活動を実施した。また, 生活目標として「公共の場での気配り」に設定し, 生活委員から啓発も行った。公共の場でのマナーを身に付けているという意識が高いが, イヤフォンや歩きスマホは, 4 人に 1 人が登下校中にしているという状況である。                      月に 3 回遅刻をした生徒に対し, 学年団で指導を行っている。ほとんど指導の対象になった生徒はいない。                      4・6・9・11・1 月の年間 25 日間のあいさつ運動を計画していたが, 雨天等により 23 日間の実施となった。                      職員室の入退室時や各行事での所作や言葉遣いなど, 全て学校生活の場面で常時指導している。                      学校評価アンケートの「先生にいろんな悩みを相談できる」という項目において, 49.2% という結果となった。                      身だしなみについては良い印象を与えコミュニケーション力を高める一つの手法とし清楚な服装及び着こなしを心掛けるように指導している。学校評価アンケートの「時間やマナーを守る取組がなされている」という項目では, 81.7% という結果となった。</p>	B	<p>挨拶やマナーの向上は成長発達を考慮し, 保護者とともに取り組んでいってほしい。                      中長期的な視点で, どのような人材を育てていくのか目標を持つことも必要であろう。徳島県の地域医療を担う人材育成に努めてほしい。</p> <p>教員に対して, 生徒・学生が抱えている悩みを気軽に相談していないという現状がある。労働環境のスリム化を図り, 生徒・学生と対話する機会を確保し, 発信された SOS を見逃さないような体制を構築するため, 教員間で共通理解を図る必要がある。                      身だしなみやマナーについては高い評価となっているが, 登下校中のイヤフォンを使用している割合が昨年と比較して 4% 高くなっている。引き続き啓発に努めていきたい。</p>	<p>生徒全員が, あいさつや言葉遣い等, 社会人としてのマナーを身につけようとしている。生徒は成長発達過程であることを認識し, 5 年間を通して支援・指導をしていく。生徒の様子に常に気を配るとともに保護者との連携を密に取り, 適切な指導のあり方を更に検討し, 信頼関係を深めていく。</p>